



福崎町立柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原 1038  
の12  
電話：0790-22-1000

# 柳田國男と災害

大正12年、柳田國男は国際連盟の仕事で滞欧していた時に関東大震災の被害を聞き、まだ任期中でしたが帰国しました。

一方、イギリスでは、デンマークで万国議員会議に列席した数名の代議士が林権助駐英大使宅に集まっていた。そこで悲しみと憂いの会話を交わしている中、一人の議員が沈痛な口調で「是は全く神の罰だ。あんまり近頃の人間が軽佻浮薄に流れていたからだ」と言いました。

國男は、この話を聞いて、地震のときに「狭苦しい町裏に住んで、被服廠に逃げ込んで一命を助

かるうとしたものの大部分は、むしろ平生から

放縦な生活をなしえなかつた人々ではないか。彼らが他のろくでもない市民に代わって、この

惨酷なる制裁を受けなければならぬ理由はどこに在るか」と詰問した

そうです。國男が帰朝して聞いたところでは、東京でも同様のことを唱えた人がおり、「誠に苦々しいことだ」と思つたとのこ

とです。  
『青年と学問』)



## 遠野物語でも津波が描かれています

「遠野物語」第9話

土淵村の助役の弟の福二は海岸の田の浜へ聲に行つた。先年の大海嘯に遭い妻子を亡くした(1896年の明治三陸地震津波カ)。

生き残つた二人の子と元の屋敷の地に小屋を掛けていた。

一年後、夏の月夜に使所に起きたら、遠くの渚にいた。夜霧の中、男女二人の近よるのを見る

と、女は亡妻だった。男も海嘯の犠牲者で、福二が誓入りする前に亡妻と両思いだった同郷の男だった。

今はこの人と夫婦だと言つので、子供はかわいくないのかと言つと、女

は顔色を変えて泣いた。福二は悲しく情けなくなり足元を見ていた間に、男女は足早に立ち退いた。追いかけたが、死者だと心付き、夜明けまで道中で考え、朝帰毛した。その後福二は久しく煩つたという。

注釈

聲=婿

大海嘯 おおつなみ



## カップ展

現在記念館2階にて開催中のカップ展は好評につき、当面、期間延長します。まだご覧になっていない方はこの機会に記念館にお越しください。



## 日本昔話集

柳田國男

藤抜き言内

昔加賀の大杉谷の瀬領

という村には、喜内という力の強い人があつたそうです。その評判が遠い国々まで響いたので、あつた勇士がわざわざ力くらべに来ました。そのとき喜内はちようど路傍の田圃に出て田植えごしらえをしていましたが、その武士が立ち寄つて、喜内の家はどこだと尋ねるので、早くも力くらべに来たものと知つて、片手に

唐鋤の横木を持つて、その

のさきに馬のくつついたまま、それを引き上げてあれあの屋敷ですと、馬と唐鋤とで指して教えた

そうです。武士はその大前に喜内であるうと言いますと、いや私は喜内の家の下男

ですと答えました。

下男でさえもこの通り、馬の附いた唐鋤で路を教えた。



ましてやその主人はどのくらい強いかわからぬと言つて、もう力をくらべる勇氣もなくなつて、すたこらとにげて帰つたという話であります。(加賀能美郡『日本昔話集』)

## お見舞

このたびの東北地方太平洋沖大規模地震により被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

## 福崎町立柳田國男 松岡家記念館誕生!!

平成23年度から記念館は、町営化となり、「福崎町立柳田國男記念館」として新たに生まれ変わりました。

引き続き、地域の皆様にご親しまれ、愛される記念館を目指して運営していきます。

また、4月から当分の間は入館料が無料となっております。企画展も行ってまいりますので、ぜひお越し下さい。